

## 【岐阜女子大学】メタデータ項目と記述内容

	メタデータ項目	メタデータ記述欄
1	ID	
2	表題名	与那原の歴史
3	資料名	御殿山
4	内容分類	郷土・歴史
5	索引語	与那原町、歴史、御殿山、聞得大君、就任儀礼
6	説明	<p>■御殿山とは</p> <p>御殿（ウドゥン）とは、王子・按司の家、またはその人を指す名称のこと で、一般に王族の家屋建物を意味する語である。</p> <p>御殿山（ウドゥンヤマ）は、山原（金武）から首里の御殿に納めるための 木材を一時的に置いておくための場所であったことから由来する地名であ る。沖縄では昔、山原（金武）から木材や薪炭を運び、南部からは米・麦・ 豆といった日用雑貨を運んで貿易を行っていた。与那原はその物資を受け取 る港として栄えていた。山原から運ばれてきた木材のうち、御殿に差し出す 木はここに置くようにさだめられたため、実際には山はないが「御殿山」と 称したというのがいい伝えである。</p> <p>なお、御殿山は 1999（平成 11）年 4 月 21 日に町指定文化財として登録さ れている。</p> <p>参照</p> <p>下中直人,『日本歴史地名大系 48 卷 沖縄の地名』,株式会社平凡社,2007.      与那原町史編集委員会,『与那原町史 序説・むかし与那原』,与那原町役場,1988.</p>
7	形式	静止画 (jpg)
8	氏名	*****
9	時代・年	
10	地域・場所	沖縄県島尻郡与那原町与那原 658
11	利用条件	表示 4.0 国際 (CC BY4.0)
12	関連資料 1	
13	権利者	岐阜女子大学
14	協力者	
15	登録日	
16	登録者	與那嶺叶

17	ファクトデータ	 <p>circd0886-0001.jpg</p>
18	*特色	<p>■御新下りをする際の最初の休息地 与那原町の御殿山（ウドゥンヤマ）は、かつて琉球王国の重要な神事で「御新下り（おあらおり）」の最初の休息地であったとされている。 「御新下り（おあらおり）」とは、琉球国王時代、斎場御嶽で行われた「聞得大君（きこえおおごみ）」の就任儀礼のことである。「聞得大君（きこえおおぎみ）」とは、琉球王国における神女の最高位に就く女性である。代々、王の娘や王妃など王族から就任し、各地の神女を束ねていた。琉球国王を守る姉妹の神（オナリ神）として、国王の長寿や王室の繁栄、農作物の豊作、航海の安全を祈るために祭を行っていた。</p> <p>■大綱曳をする前にお参りをする場 与那原町の大綱曳は、沖縄三大大綱曳の一つに数えられる伝統行事で、450年余の歴史を誇っている。 与那原大綱曳の由来について、『与那原町の民話』には次のような伝が残されている。その昔、害虫が発生して稲が不作となり、人々は餓死寸前まで追い込まれた。困り果てた村頭は、アトム（堤）の下に捨てた老人に相談したところ、村民総出で鐘や太鼓を打ち鳴らし、大声を出しながら綱を曳くようにと教えてくれた。この教えに従ったところ、害虫を退散させることができたという。この話を聞いた王は、毎年綱を曳いて豊年祈願することを奨励し、老人を捨てるのを禁じたと伝えられている。 本来は毎年旧暦の6月26日に開催され、東西に分かれて綱を曳き、五穀豊穣や無病息災を祈願する行事である。しかし、現在は、農家の減少や生活環境の変化、観光宣伝要素が強くなったことなどから、26日以降の日曜日に定められている。そのため、26日当日には豊年・健康祈願とともに綱曳の延期を報告する「日延べの御願」が実行委員会によって行われている。 大綱曳画行われる前には、綱曳実行委員会により町内5か所の拝所を巡る重要な祈願行事が行われる。拝所を巡る順路は、東名大主、宗之増、阿知利</p>

		<p>世主、御殿山、親川の順となっており、御殿山はこの5か所の拝所の一つとして選ばれている。</p> <p>御殿山は、琉球王国時代の御新下りの最初の休息地であり、古くから神聖な場所として大切にされてきた。琉球王国時代から現代にいたるまで、御殿山は与那原町の伝統文化を今に伝える重要な場所として、祭祀において欠かせない役割を果たしている。</p> <p>参照</p> <p>与那原町教育委員会,『与那原歴史の道を巡る』,与那原町教育委員会,2013. 与那原町大綱曳資料編集委員会,『与那原大綱曳』,与那原町教育委員会,2005.</p>
<b>19</b>	<b>*活用支援</b>	
<b>20</b>	<b>*利用分野</b>	教育、生涯学習、地域学習、観光
<b>21</b>	<b>*改善結果</b>	
<b>22</b>	<b>*処理プロセス</b>	
<b>23</b>	<b>*関連資料2</b>	